整理番号	68-18-05

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　　岡 山 大 学　　学部・研究科等名　　資源生物科学研究所

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目：Ⅰ　研究活動の状況

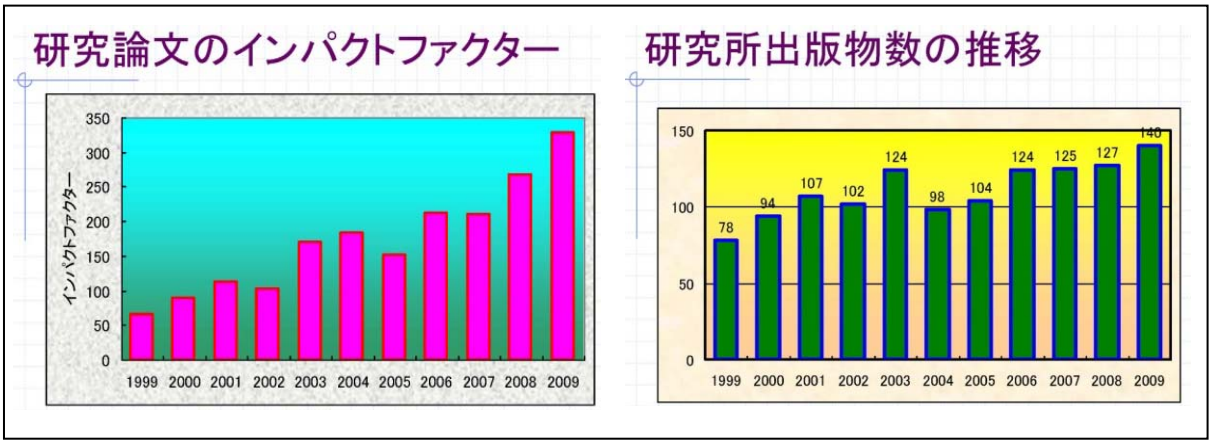
2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：研究活動の実施状況

平成 20 年度では，教員一名あたりの平均論文発表件数は平成 19 年度とほぼ同等（3.4 件）であったが，平成 21 年度には 4.5 件と増加した。また，より質の高い研究が行われるようになり，発表雑誌のインパクトファクターも急増した（平成 19 年度インパクトファクター合計：210，平成 20 年度：268，平成 21 年度：328）（資料１）。

また，平成 20 年度，21 年度とも外部資金獲得総額は，前年度を越え，平成 21 年度は過去最高（約 3.6 億円）を記録している（資料２）。全国規模のシンポジウム，国際研究集会もこれまで以上に活発に開催されている（資料３）。

資料１：論文発表数等



（出典：資源植物科学研究所資料）

資料２：外部資金獲得状況　　（単位：円）

平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
299, 672, 120	334, 483, 019	364, 129, 524

（出典：資源植物科学研究所資料）

資料３：シンポジウム等開催状況

第 26 回資源生物科学国際シンポジウム
「宇宙植物科学研究最前線
　―宇宙での生活を目指して―」
日時：平成 21 年 11 月 28 日
場所：岡山大学創立五十周年記念館

第２回植物ストレス科学研究シンポジウム
「植物ストレス科学研究と遺伝資源」
日時：平成 22 年 3 月 8 日～9 日
場所：倉敷芸文館アイシアター

（出典：資源植物科学研究所資料）

整理番号	68-18-06

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　岡 山 大 学　　学部・研究科等名　資源生物科学研究所

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例名：事例３「全教員の任期制の適用」（分析項目Ｉ）

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

多様な知識又は経験を有する教員等相互の学問的交流が不断に行われる状況を創出することが教育研究の活性化にとって重要であり，任期を定めることで，大学等への多様な人材の受入れを図り，教育研究の発展に寄与することを目的とするため，当研究所では，全教員(教授，准教授，助教，助手)に対し平成 20 年度以降実質的に適用が始まった。（資料１）これにより，教育研究が活発に行われる効果が期待される。なお，新規採用教員の公募文書にもこのことが盛り込まれた。（資料２）

資料１：職名別任期一覧

職　名	任　期	備　考
教　授	10 年	再任可（ただし，再任の場合は，８年ごとの任期とする。）
准教授	８年	再任可（ただし，再任の場合は，６年ごとの任期とする。）
助　教	６年	再任可（ただし，再任の場合は，４年ごとの任期とする。）
助　手	４年	再任不可

（出典：資源植物科学研究所事務部資料）

資料２：教員の任期制の概要

教授公募の文書には以下の文言が盛り込まれた。

「本公募教員には，任期制（10年，再任可）が適用されるとともに，岡山大学大学院自然科学研究科の研究指導ならびに授業担当をお願いすることになります。

（出典：資源植物科学研究所事務部資料）